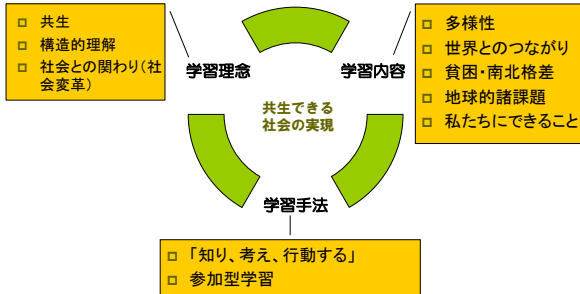


開発教育の概要

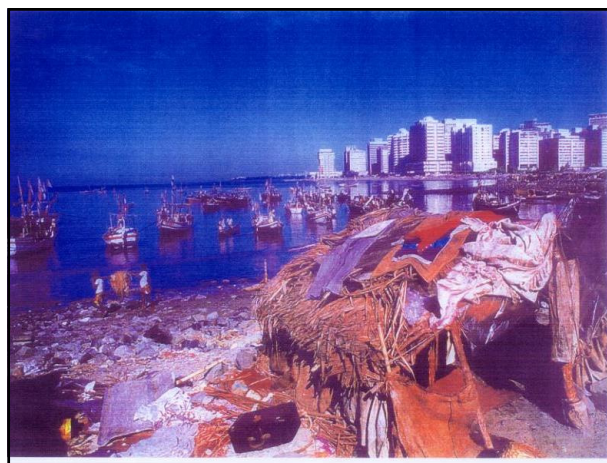
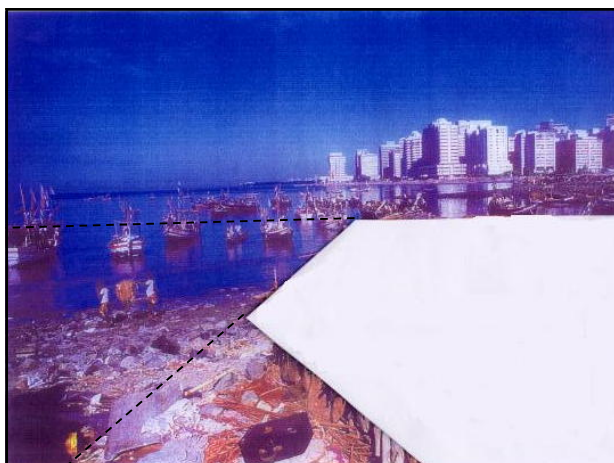
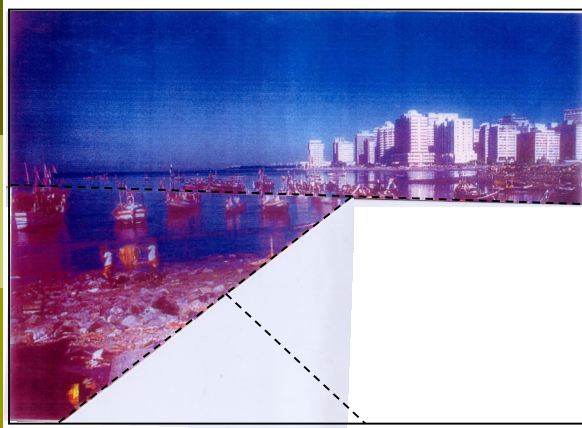
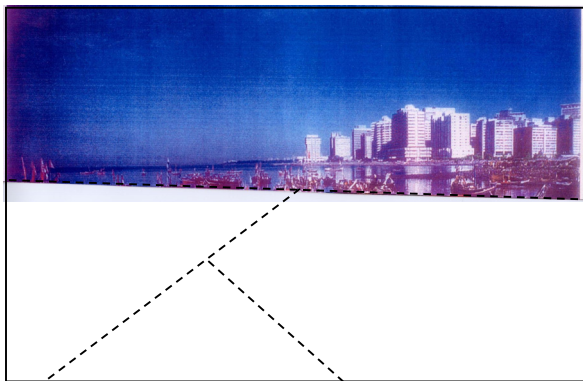
特定非営利活動法人 開発教育協会



開発教育とは

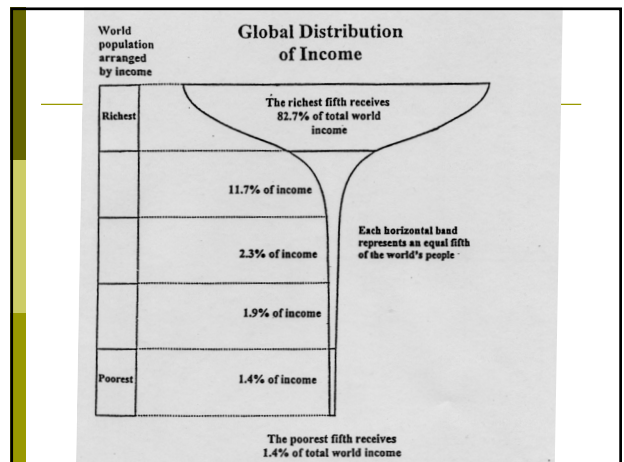
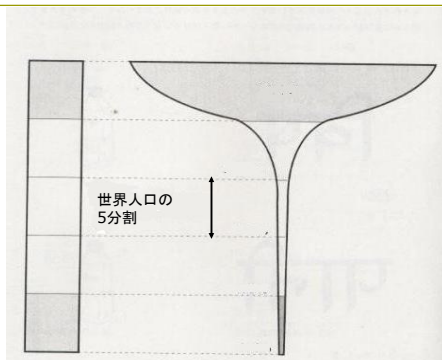


これはどこでしょう？





何を表しているでしょう？



教材・資料

□ 教材および資料の作成・発行



ご質問・ご相談・入会のご案内は・・・



<http://www.dear.or.jp>

開発教育とは

1)開発教育という名称

Development Education

(Develop + envelop) (封を開いて中身を取り出す)

2)始まりと展開

- 1960年代～ ヨーロッパの開発NGOから始まる
- 1970年代～ 世界の相互依存関係、格差の構造
- 1980年代～ 日本での展開「国際協力教育」
- 1990年代～ 「開発」のありかたを考える教育活動

3)ねらい 「共に生きることのできる公正な社会」をつくること

●学習理念

- 1) 競争の原理から「共生の教育原理」へ
- 2) 異文化理解から「多文化共生(地域や国内での共生)」へ
- 3) 情緒的理解から「共感的理解と構造的理解」へ
- 4) 現状維持から「自己・社会変革」へ

c. f.「ユネスコ国際勧告(1974)」 「平和の文化を築くこと」をめざし、地球的諸問題に焦点を当てている

4)学習目標

- ・多様性の尊重 (人権を尊重し、さまざまな文化・生活から学ぶ)
- ・開発問題の原因と構造 (国内外の格差や貧困の現状とその背景を学ぶ)
- ・地球的諸課題の関連性 (環境・人権・平和などの関係性を学ぶ)
- ・世界と私たちとのつながり (衣・食・住など身近なところからつながりに気づく)
- ・私たちのとりくみ (足元からできることを考える)

5)学習方法・プロセス(参加型学習)

- ・知る→考える→行動する (問題発見・解決型)
- ・社会参加のための参加型学習
- ・方法はメッセージを持つ

6)開発教育協会(DEAR)の活動

- ・ネットワーク組織
- ・全国の担い手を支援
- ・政策提言
- ・情報収集・発信
- ・調査研究

■参考文献:

- 『開発教育ってなあに? 開発教育Q&A集 (改訂版)』 (DEAR, 2004)
- 『参加型学習で世界を感じる 開発教育実践ハンドブック』 (DEAR, 2003)

■ (特活)開発教育協会

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-17-41-3F TEL: 03-5844-3630 FAX: 03-3818-5940

Email: main@dear.or.jp web: http://www.dear.or.jp

地球ビンゴ

質問しよう！

■すべて、違う人を見つけてください。

■答えてくれた人の名前と、答えを書いて下さい。

① 海外に文通相手やメル友がいる人 【友だちの名前】 国・地域名 名前：_____	② 外国に行ったことがある人 国・地域名 名前：_____	③ 熱帯雨林から来ているものを知っている人 【モノの名前】 国・地域名 名前：_____	④ 外国のどこかに行ってみたい人 【場所】 国・地域名 名前：_____
⑤ 外国から来た人のお世話をしたことがある人 【だれを】 国・地域名 名前：_____	⑥ 今朝、日本産でない物を食べた人 【食べ物】 国・地域名 名前：_____	⑦ 外国の食べ物が好きな人 【食べ物】 国・地域名 名前：_____	⑧ 日本製でない服を着ている人 【何を】 国・地域名 名前：_____
⑨ 外国のスポーツ選手の名前を言える人 【だれを】 国・地域名 名前：_____	⑩ 最近海外のニュースを新聞やテレビで見た人 【ニュース】 国・地域名 名前：_____	⑪ アフリカ出身の有名人的名前を言える人 【だれを】 国・地域名 名前：_____	⑫ 日本に住む外国人の友だちがいる人 【友だちの名前】 国・地域名 名前：_____
⑬ 外国の音楽が好きな人 【どんな音楽】 国・地域名 名前：_____	⑭ 日本に店や事務所がある外国の会社を知っている人 【会社の名前】 国・地域名 名前：_____	⑮ 国際協力の活動をしている団体の名前を知っている人 【団体】 国・地域名 名前：_____	⑯ 日本で話されている日本語以外の言語を知っている人 【言語・ことば】 国・地域名 名前：_____

開発途上国と日本の市民を結ぶ「架け橋」に
— 開発教育支援事業 —

■ 開発教育とは

貧困・飢餓、環境破壊など国際社会・地域社会の現状を知り、開発・環境・人権・平和をはじめ様々な問題についての理解を深め、国際協力・開発援助の重要性についての認識を深めるための教育、また、開発途上国と先進国との関係を含め国際社会の問題の解決に向け、なんらかの形で参加する態度や能力を養うことを目的とした教育のことです。

■ 開発教育への支援

開発教育の担い手は、直接的には教育現場の教員、開発教育を活動目的とする NGO、市民団体とさまざまであり、またその活動内容も多彩です。これら多様な「開発教育」の担い手の中であって、学校等の継続的な教育現場を持たない JICA としては、開発教育を側面から支援する「開発教育支援事業」に重点を置いています。

■ 開発教育支援事業の柱

JICA は、開発途上国と日本の市民の「架け橋」となるために、開発途上国の実情や開発途上国及び日本との関係に関する「**知見の還元**」及び市民の皆様が自主的に何ができるかを「**考える機会の提供**」に重点を置いた開発教育支援を展開しています。

JICA は長年に亘る開発途上国における技術協力、ボランティア事業の実施や、その情報・経験の体系化や分析を目的にした調査研究を通じて知見を集積し、保有しております。これら JICA の知見を日本の市民に還元することにより、日本の市民に開発途上国の実情と日本との関わりについて理解を促すことを開発教育支援事業の柱の一つとしております。

また、「総合的な学習の時間」の中での取り組みを中心として、義務教育との連携を強化しながら、市民の皆様が自主的に何ができるかを考える機会を提供することにも力を入れております。

■ 知見の還元

1. 国際協力出前講座

開発途上国の実情と、開発途上国及び日本との関係を理解していただくため、職員、専門家やボランティア経験者、来日している研修員などを講師として学校等へ派遣しております。2004年度には、学校を中心に全国で2,191件の講座を実施し、約23.5万人の方が受講をされました。



2. 開発教育のための教材

① 産経広告社の「育て！子供たち」

産経広告社の「育て！子供たち」に出稿し、開発途上国に関する情報を全国の小学校・中学校等約16,000校の掲示板に5回掲示しました。また、開発途上国の教育問題の概観を収録した小学生から中学生向けパンフレット「学校に行きたい！」もご好評を頂いております。

② ホームページ「ぼくら地球調査隊」

水問題、砂漠化、人口増加、環境などの地球規模の問題をアニメーションを使ってわかりやすく解説しています。

<http://www.jica.go.jp/kids/pages/index.html>



③ 開発教育用教材「JICAフォトランゲージ・キット」

教師やNGOの方々と共同で作成した開発途上国の風土や暮らしぶりを生き生きと表現した写真教材です。教室で写真を使って考えたり、意見を交換しあって、途上国の現状や課題について理解を深めるのにご活用いただいております。全国のJICAプラザで貸し出しを行っております。



■考える機会の提供

1. 中学生・高校生エッセイコンテスト

開発途上国の現状と国際協力の必要性について理解を深め、国際社会の中で日本は何をすべきか、また、自分たちひとりひとりがどう行動すべきかについて考えてもらうことを目的として、全国の中学生・高校生を対象にエッセイコンテストを実施しております。2004年度は、合計 28,465 点の応募がありました。副賞として上位入賞をされた方をアセアン等への研修旅行に招待しました。

2. 国際協力実体験プログラム

国際協力に関心のある中学生・高校生等を対象に、海外から来た研修員との交流や、専門家・ボランティア経験者の講義やワークショップを通じて日本と世界のつながりやどういった国際協力が必要とされるかといった観点から考える機会を提供するプログラムです。2004年度は、全国で 74 のプログラムが実施され 3,166 名の方が参加されました。

3. 教師海外研修



国際理解教育・開発教育に関心のある小学校から高等学校の教師を対象に、開発途上国で 10 日間ほど研修をおこなうプログラムです。帰国後、参加者は、研修で得られた経験をもとに、それぞれの教育現場において開発教育に関する授業を実践し、それをレポートとしてご提出頂いております。2004年度は、19 チーム 191 名の方を派遣しました。

4. 開発教育指導者研修

開発教育の指導にあたる教員等を対象に、教材の作成と活用方法、参加型学習の手法等を取り上げた実践的な研修を行っております。2004年度は、全国で 70 件の研修を実施し、2,656 名が参加されました。この研修は、教育現場のニーズに合致するように、教育委員会、地域国際化協会、開発教育に取り組んでいる NGO や教師の方々と共同で運営・実施しています。



JICA地球ひろばは、市民参加による国際協力の拠点として多くの市民が訪れ、途上国の人々への共感や理解感を育む場となり、国際協力に関わる市民団体の情報発信や交流、研修の拠点として利用される場となることをめざして設立されます。

このJICA地球ひろばではみなさまの国際協力活動を応援し、ボランティアの心で国際協力に参加する人々が増えること、地域社会での体験に根ざした市民による国際協力がより確実に途上国の住民ひとりひとりに届くことを推進したいと考えます。

JICA地球ひろばの主な事業内容

- 1. 開発教育への支援**
 - ・開発途上国の現状や地球が抱える問題、国際協力の実際などの展示・修学旅行や課外学習などでの訪問の受け入れ、学校への講師派遣
 - ・開発教育についてのご相談受け付けや教材の貸し出し
 - ・JICAや国際機関の活動を紹介する資料や映像の提供
 - ・市民団体や自治体、大使館などとの協力による国際協力、開発問題の理解促進活動の実施
- 2. 国際協力への参加相談・支援**
 - ・JICAボランティア（青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニア・ボランティア）への応募相談
 - ・国際協力業務の求人情報の提供、人材登録の支援
 - ・車の運転技術指導事業への応募相談
 - ・市民の声を発信
- 3. 市民団体・地方自治体との協働**
 - ・市民団体や自治体、大使館などの企画による展示や催しの共催
 - ・セミナー・ルーム、会議室、講堂、宿泊施設などの貸し出し
 - ・NGO 自治体職員への研修
- 4. 市民参加による国際協力の実施**
 - ・車の運転技術指導事業
 - ・JICA青年招へい事業
 - ・日系研修員受入れ事業
- 5. JICAボランティアへの各種研修・ボランティアの社会還元支援**
 - ・短期派遣のボランティアの派遣前研修
 - ・帰国時オリエンテーションと進路相談
 - ・帰国ボランティアの社会還元活動の推進

開催時間（予定）

※月曜 祝日も含む）定休	
貸し出しスペース	9:30～21:30
展示・相談スペース	10:00～20:00（平日） 10:00～18:00（土・日・祝日）
カフェ・ボランティア	10:00～22:00（平日・土） 10:00～18:00（日・祝日）

よりよい明日を、世界の人々と。

JICA地球ひろば

（独立行政法人 国際協力機構 広尾センター）

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24
URL: <http://www.jica.go.jp/hiroba/>

お問い合わせ先

TEL : 03-3400-9426

FAX : 03-3400-7394

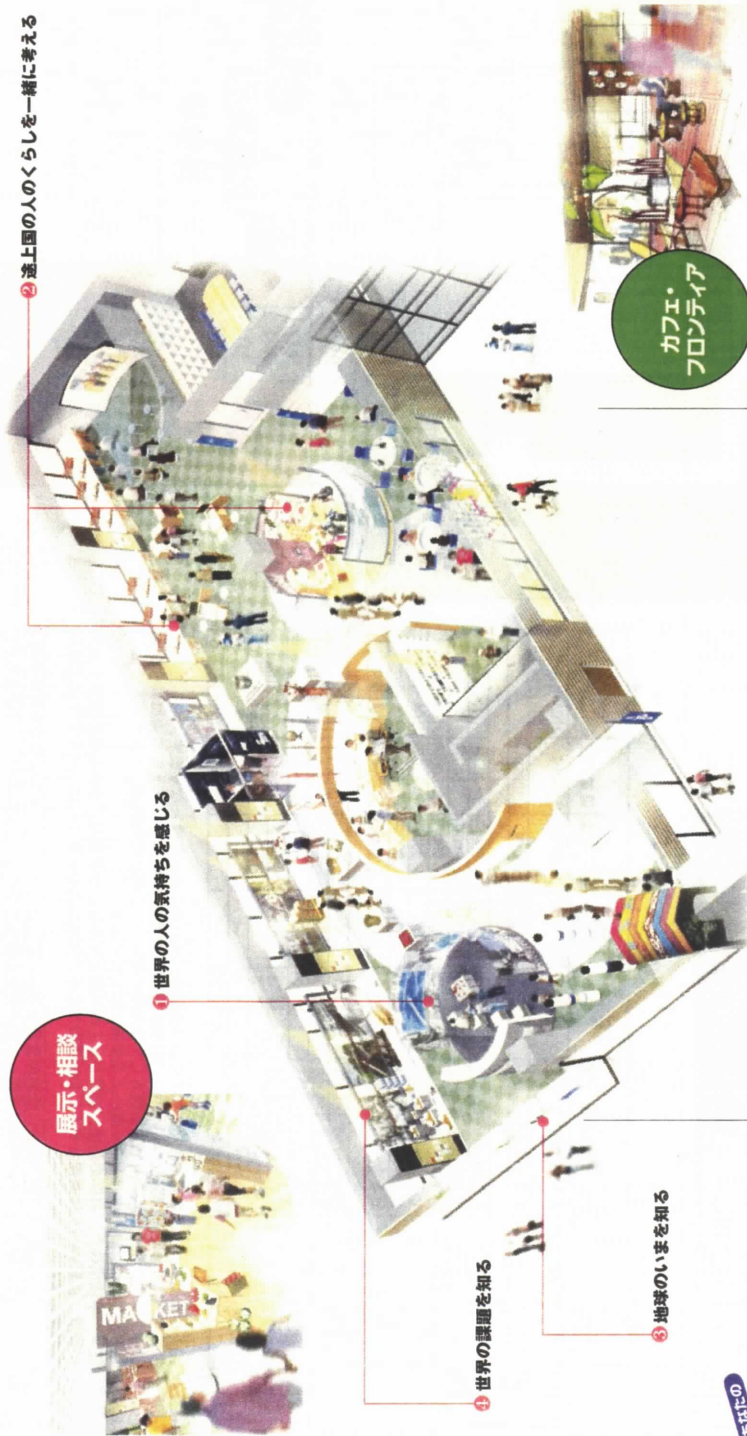
E-mail : chikyuhiroba@jica.go.jp



【交通案内】 東京メトロ日比谷線 広尾駅下車（A3出口）徒歩1分

あなたの国際協力「したい・しりたい」をカタチにします。

あなたの「？」を「！」に。海外経験豊富な常駐スタッフになんでも聞いてください！相談してください！



② 途上国の人のくらしを一緒に考える

展示・相談
スペース

① 世界の人々の気持ちを伝える

③ 世界の課題を知る

④ 地球のいまを知る

あなたの

「？」を解決しましょう。

世界の人々の気持ちを
お伝えします。

見て、聞いて、ざわって、いま世界が直面してい
る課題をスタッフと一緒に考えましょう。
世界の課題をぐくぐと身近な問題として感じ
て、なにか自分ができることはあるかな？と
思ったら、スタッフと一緒に探しましょう。

あなたの「？」はまずスタッフへ、
気遣いに声をかけてください



カフェ・
フロンティア

「？」な味や「！」な味を
体験しましょう。

そんなよそこのエスニックではありません。
異国情緒あふれる空間で、海外の庶民の味を提供します。
イベントに応じて、各フロアへのケータリングサービスや貸し
切りパーティーにも対応します。



あなたの

「！」を応援します。

「情報発信」と「交流」に
お役立てください。

各種イベントのためのスペースを貸し出します。展
示会からパネル、報告会、セミナー、語学教室な
ど、その熱い気持ちを伝えてください。同じ思いの
人達と国際協力を語り合ひましょう。

貸し出し
スペース



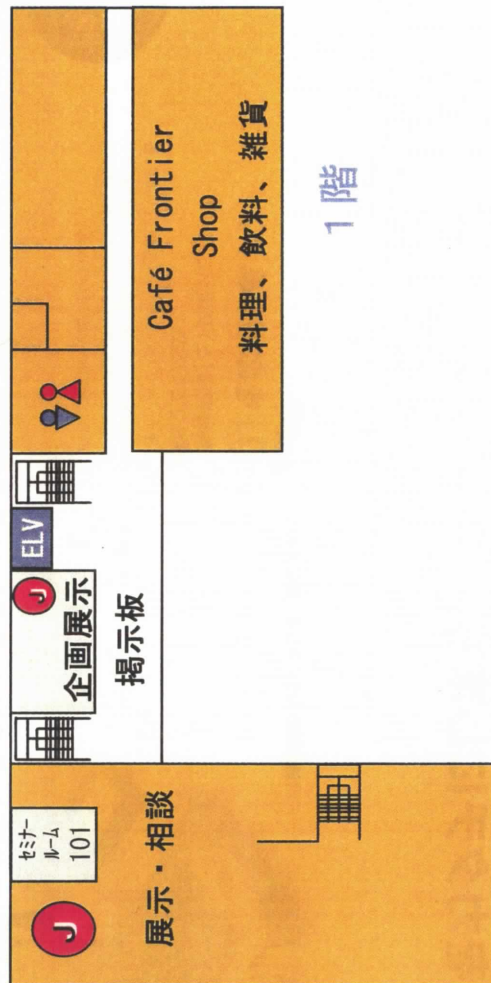
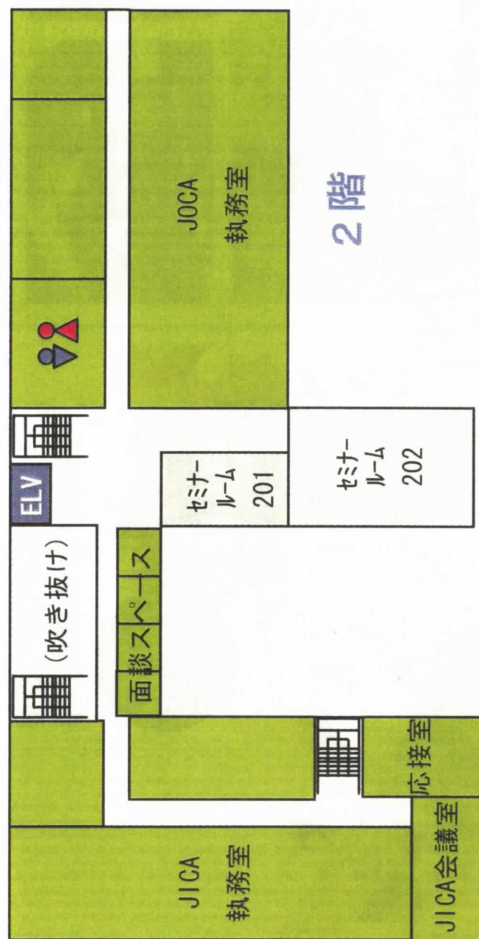
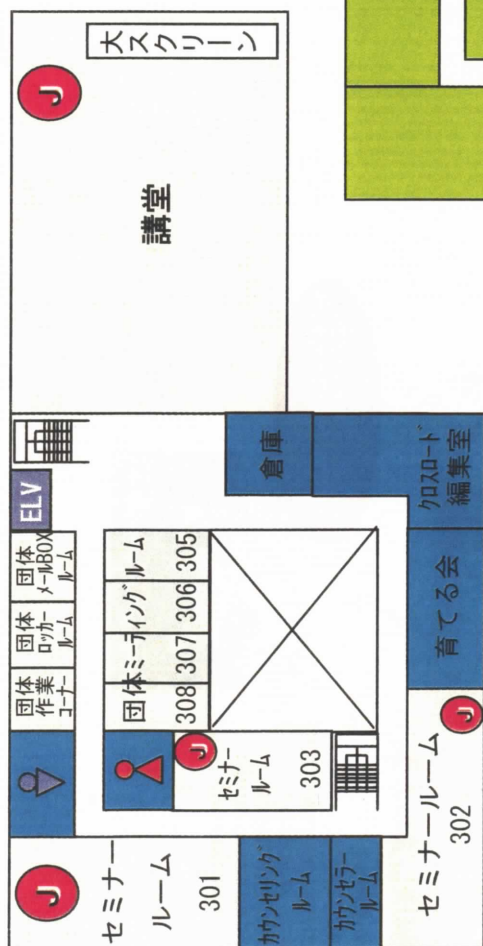
● セミナールーム・講堂
(7名から225名まで対応。一部TV会議システム利用可)

● 企画展示・掲示版スペース(入ロビー)

● 中庭・カフェ・フロンティア

● 宿泊施設(55名まで対応可)

貸出スペース配置図



<貸出スペース>

分類	会議室名	収容数		基本料金	追加料金	設備
		面積 (㎡)	定員 (人)			
企画展示	企画展示スペース	139.27	—	1,800円	600円	JICA-Net 7' 0" x 7' 0"
	セミナールーム101	35.36	15	900円	300円	—
イベント セミナー	セミナールーム201	36.98	15	900円	300円	—
	セミナールーム202	96.57	48	1,500円	500円	—
	講堂	450.34	225	5,000円	1,500円	JICA-Net
	セミナールーム301	104.70	52	1,500円	500円	JICA-Net
	セミナールーム302	63.44	32	1,000円	300円	JICA-Net
サポート スペース	セミナールーム303	95.08	48	1,500円	500円	JICA-Net
	団体ミーティングルーム305	24.06	8	—	—	—
	団体ミーティングルーム306	24.06	8	—	—	—
	団体ミーティングルーム307	24.06	8	—	—	—
	団体ミーティングルーム308	24.06	8	—	—	—
3階	団体ミーティングルーム	18.70	—	—	—	メーBOX
	団体ロカールーム	21.13	—	—	—	ロカー
	団体作業コーナー	17.64	—	—	—	コピー機等

注1：貸出スペースの利用にあたっては団体登録をすることが条件となります。
 注2：基本料金は3時間分の料金です。3時間を超過した場合は1時間につき上記の追加料金が加算されます。JICAの後援、協賛もしくは共催に限り、JICA-Netの利用が可能です。
 注3：1階は、JICAとの共催による使用に限定されます。
 注4：申請団体が、JICAの後援、協賛もしくは共催とすることを申請し、当該会議の開催をJICAが後援、協賛もしくは共催とすることが適当であると所長が認める場合には、以下のとおり料金を減免します。

①後援	行事の趣旨に賛同の意思を表示すること。	利用料金の半額を免除
②協賛	行事の趣旨に賛同し、その開催を援助すること。	利用料金の全額を免除
③共催	行事の企画又は運営に参画し、主催者と共同して行事を執行すること。	利用料金の全額を免除

<宿泊スペース>

4階、5階に宿泊スペースも用意しています。

お近くの郵便局に備え付けの払込取扱票をご利用のう
え、会費を下記口座までお納めください。折返し入会
お礼セットをお送りいたします。

加入者名：特定非営利活動法人 開発教育協会

※払込票の通信欄に、「新入会費」であること、お名前、ご住所、電話番号、会員種別（個人正会員／団体正会員／個人賛助会員／学生賛助会員／団体賛助会員）、ご職業、入会の動機をご明記ください。

- ・研究誌「開発教育」（年1回）・
- 情報誌「DEAR ニュース」（年6回）の送付
- ・イベント・セミナーなどへの割引参加
- ・出版物の割引購入
- ・プログラム企画や講師派遣などの無料相談
- ・会員用メーリングリストへの参加

※会費の有効期間は、4月1日から翌年3月31日までの一年間となります。

正会員

正会員
DEAR の組織や事業の運営に積極的に参加・協力して下さる方。
会員総会に出席し、決議に参加したり、
組織強化に向けた活動にご協力したりしていただきます。

贊助會員

会員サービスなどは正会員と同じです。

個人會員

年会費

8,000 円

団体会員

20.000 円

個人會員

8,000 円

学生会員

6,000 円

団体会員

20,000 円

入会初年度会費

※初年度会費はご入会の月によって割引がございます。2年目からは通常の会費になります。



入会の時期	個人会員	個人学生会員	団体会員
4月～6月に入会される方	8,000円	6,000円	20,000円
7月～9月に入会される方	6,000円	4,000円	15,000円
10月～12月に入会される方	4,000円	3,000円	10,000円
1月～3月に入会される方	2,000円	1,000円	5,000円

Development Education Association & Resource Center
http://www.dear.or.jp



DEARのこれまで

1982年に日本で開発教育を普及推進するための連
絡協議体として、「開発教育協議会」が任意団体と
して発足。1992年からは、毎年全国6カ所で「開
発教育地域セミナー」を開催し、これをさきかけに
地域のグループワークがいくつも生まれ、開発教育の「担
い手」が育っていききました。

2000年からは総合的な学習の時間がはじまり、
学校教育で開発教育の手法を学び、実践する機会が
広がりました。

2002年には20周年をむかえ、組織の役割の変
化から、名称も「開発教育協議会」から「開発教育
協会」と変更。2003年にNPO法人校を得ました。

DEARは「開発教育」を推進するためのネット
ワーク組織です。

DEARの特徴は、さまざまな立場の人たちが
一緒に「学びの場」づくりに参加し、「世界」と学
ぶの場」をこなしていくことです。教育関係者、
NGO・NPO、青年海外協力隊・OB・OG、国際機関、
国際交流協会、自治体、そして研究者や学生など、
幅広い層の人たちが参加しています。

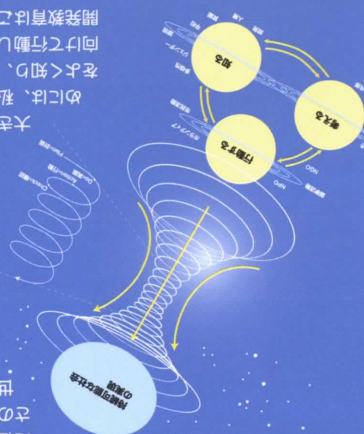
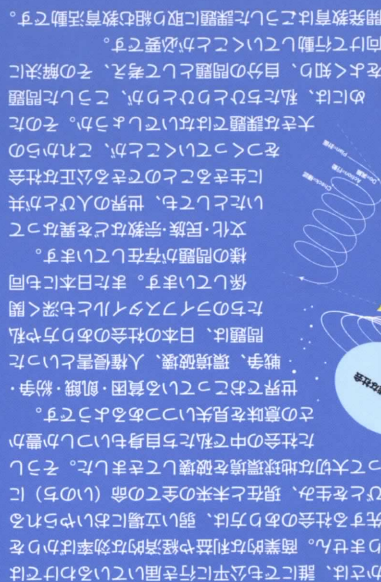
開発教育には世界的なネットワークの動きもあ
り、その輪はますます広がっています。

・世界の文化の多様性を理解し、あらゆる人びとを尊重する心を育てる

・世界にある不公平な現状を知り、問題の原因を理解する

・世界で起きているさまざまな問題の関連性や世界と自分自身との深いつながりを知る

・問題の解決に参加できる能力と態度を養う



共に生きることできる 公正な地球社会づくりのための教育

DEARは、開発教育を日本の教育現場をはじめ、さまざまな場を広げていくため、次のような役割を担います。

- 
- ★ 地域や学校などでの「学びの場」づくりを支援すること
 - ④ 政府との対話や、政策に対する提言を行うこと
 - ⑤ 世界各地の関係団体との情報交換やネットワークづくり
 - ★ 開発教育に関連する国内外のさまざまな情報を収集・発信すること
 - ⑥ 開発教育の調査研究を進めること

入会のご案内

- ・ 会員となって「共に生きることのできる公正な地球社会づくり」に向けた教育活動に参加しませんか。
- ・ 開発教育にご関心のある方、DEARの活動の趣旨にご賛同いただける方はどなたでもご入会いただけます。



開発教育協会

特定非営利活動法人 開発教育協会
DEVELOPMENT EDUCATION ASSOCIATION & RESOURCE CENTER
〒112-0002 東京都文京区小石川12-17-41 富坂キリスト教センター2号館3階
TEL: 03-3207-8085 FAX: 03-3207-8484
E-mail: main@dear.or.jp URL: <http://www.dear.or.jp>
■大阪事務所
〒530-0013 大阪府大阪市北区茶屋町2-30 聖パウロ教会4階AVC内
TEL FAX: 06-6374-5119 E-mail: osaka@dear.or.jp

DEARは運動・研究・創造の
三つの軸を一体とした活動として、21世紀の教育を表現していきます

政府などに開発教育の推進を働きかけるアドボカシー（政策提言）や、
開発教育の担い手を育て、支えるための
国内・海外のネットワークづくりを行っています。
ネットワークは、日本全国連携しています。
海外では欧州、東南アジア、韓国に広がっています。
たとえば…
・外務省や国際協力機構（JICA）への政策提言・政策対話
・「全国ネットワーク会議」の開催
・英国スタディツアーや日タイ協同セミナーの開催 など



各地で開かれているワークショップや
研修、どなたでも自由に参加できます。

運動 movement

開発教育を「ひろげ・ささえる」ために



研究 Research

開発教育を「かんがえ・ふかめる」ために

創造 Creative

開発教育を「つくり・つたえる」ために

人と世界との出会いの中に多様性が育まれ、
コミュニケーションとネットワークから
新しい教育が発信されています

これからの開発教育を切り拓いていくための
研究会活動を行っています。

研究誌「開発教育」にはその成果報告や、
会員の方からの投稿原稿も掲載。

毎年夏の「開発教育全国研究集会」では、
全国の実践者・研究者の学びあいと出会いの場となっています。

たとえば…

- ・「地域・文化・学び」研究会、「貧困・開発・協力」研究会
- ・「開発教育全国研究集会」の開催
- ・研究誌「開発教育」の発行

開発教育を幅広く伝え、行っていくために、開発教育教材の作成や、
全国への講師派遣、研修・講座を開催しています。

また、「開発教育情報センター」の運営をはじめ、
会報誌やウェブサイトなどでの情報発信を行っています。

たとえば…

- ・「ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら」
「新・貿易ゲーム」などの教材の作成
- ・「全国教材持ちよりセミナー」や「開発教育入門講座」の開催
- ・全国へ、年間約130回の講師派遣

活動に参加してみませんか

開発教育の活動は、全国各地で、さまざまな形で行われています。あなたにあった参加の方法を、ぜひ DEAR で探してください。
詳しくはウェブサイトをご覧ください、事務局までお問い合わせください。

・ **会員になる**・・・ DEAR の一員として、会費で開発教育活動を支えてください。

・ **活動チームに参加する**・・・ DEAR の活動はすべて、ボランティアのチームによって
企画・運営されています。ご関心のある活動に、ぜひご参加ください。

・ **セミナーに参加する**・・・ 各種講座やイベントが一年を通じて企画されています。

・ **寄付をする**・・・ 市民による教育団体として独立して活動を行っていくために、ご寄付をお願いできませんか。

・ **事務局のインターン／ボランティアに参加する**・・・ 事務局では、ボランティアを随時募集しています。

わたしたちも活動に参加しています



玉城直美さん
沖縄 NGO 活動推進協議会
複雑な世界の問題をどう
理解したらよいのか、その
気づきや学びの視点を
DEAR の教材等から頂い
てます。次はこれから地
域の問題や学びを発信し、
共に解決しあえたらいいな
と思います。



汐見裕幸さん
東京大学大学院教授／付属学校長
開発実践に自ら関わるこ
とと子どもの心の開発を統
一的に追求する。教育に絶
望し始めていた私を変えて
くれたのが、知人のこんな
言葉でした。Think globally,
act locally とともに私の座
右の銘です。



福田能文さん
東京都中途失聴・難聴者協会
聴覚障がい者の視点で
DEAR の活動に対してバ
リアフリーを提言し、一緒
に実行しています。そうし
た活動を通じて自らの可
能性を発見することができ、
とても充実しています。



大谷美保さん
財団法人日本フスタープラン協会
DEAR を通じて得られる
情報と人脈、そして頼れ
るその専門性は、開発教育
を実践する NGO にとって
貴重な情報源になっていま
す。特に手法やネットワー
キングで助けてもらって
います。



早川信夫さん
NHK 解説委員
開発教育には、子どもたち
にとって遠い存在である途
上国のことを理解すること
で、自分の足元を見つめ、人
になぜやさしくする必要が
あるのかを感じ取れる可
能性があると信じています。



岡田朋子さん
DEAR-YOUTH / 大学院生
DEAR-YOUTH で活動し
ています。「自分一人でき
ることは、あまりにも小
さい」と感じた時、DEAR
や DEAR-YOUTH を視
きにきて下さい！力になる情
報や人が集まっています。